

編集委員報告

さたけ せいじ
佐竹 政治



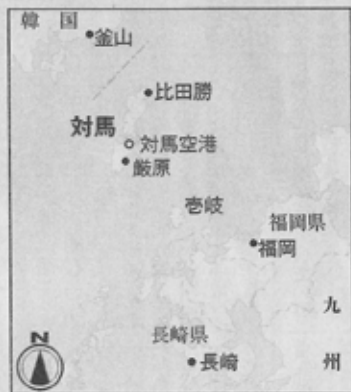
国境の島・対馬

国境地帯の自治体関係者、研究者が課題を話し合う国境フォーラム in 対馬(北大グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」主催)が11月12、13の両日に長崎県対馬市厳原で開かれ、翌14日には島内実地調査も行われた。国境交流の先進地とされる対馬で、韓国人観光客が詰めかける現場を訪れ、すれ違いともいえる交流の課題もかいま見えた。

日韓交流 活況とすれ違い

フォーラムのまとめで、研究リーダーの岩下明裕北大スラブ研究センター教授は、国境地帯は、①国境線が全く決まらずに地域の解決した中国・ロシアなど②どうに解決して国境を透明化している米国・カナダなど③の3段階があるとし、「対馬は国境線がはっきりしている。対馬があり、釜山と福岡が交流し、国境を透明化している」という日本でもっとも先進的な場所。それに比べ、根室、北方領土は「一番つらい」と位置づけた。

対馬の観光スポットは、バスで巡回する韓国ツアー客でにぎわう。和都観光バス



ツアー続々、雇用も創出

で落ちたものの4万5千人。活を見たかったけれど、住民とのふれあいも少ない」と不満だ。

長崎県の07年の分析では、島内消費額は22億円に上り、266人の雇用を生み出しているとし、産業の柱になっている。

観光目的は「中継など日韓交流中探訪」「島内各所にある500以上の原生林へのトレッキング」「イシダイなどの魚釣り」の三つが主力という。

対馬市観光物産推進本部の二宮照幸課長補佐は、江戸期の朝鮮通信使の交流や幾つもの戦争を振り返り

観光客「ふれあい少ない」

「歴史を見れば、韓国との交流が盛んなときは島は良かった。(戦争期の)事実上は事実として現代の交流を進めたい」と願う。

観光客は何を感じているのか。歴史好きのキム・セジュンさん(52)、ソ・サンカさん(49)夫妻は「きれいな海や景色、(対馬藩主宗氏代々の)墓所が印象に残った」と満足そう。その一方で、女性仲間を訪れた金業謙さん(24)は「素朴な雰囲気を感じたが、日本人は韓国と変わらない。日常生

島北部でペンションを経営する比田勝亨さん(53)は、長年地元で船代理店として韓国語を使いこなしてきた。部屋には韓国仕様で200円コンセントをつけている。島内で支払いをめぐるトラブルもあるが「ウォンがあるなら電卓で計算してほとんどん流ばいい」と積極的だ。福岡より近い360万都市の釜山を精力的に訪れ、友達も多い。「生き残るために仲良くないまま

対馬への韓国人入国者数の推移

